

事前評価個表

事業名	森林環境保全整備事業（国有林）	事業実施期間	令和 8 年度～令和 12 年度（5 年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	（あばしりとうぶ） 網走東部森林計画区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 網走中部森林管理署 網走南部森林管理署
事業の概要・目的	<p>本事業は、北海道の北東部に位置し、網走中部森林管理署、網走南部森林管理署管内の 2 市 9 町に所在する約 243 千 ha の国有林野を対象としている。</p> <p>本計画区は、西端に石狩山地を構え、そこから釧北峠や美幌峠、斜里岳、知床連山と続く緩線に囲まれており、内陸部は、緩やかに連なる丘陵地とこれらに挟まれる小盆地がオホーツク海沿岸まで続いている。また、網走川、常呂川、斜里川をはじめとする河川が、丘陵地を下り、農地、都市部を潤しながらオホーツク海や沿岸部の網走湖、能取湖等の湖沼群に注いでいる。</p> <p>この地域は、知床及び阿寒摩周の 2 つの国立公園、網走国定公園、斜里岳道立自然公園に指定されるなど、森と湖と海が調和した特有の自然景観を有する地域である。特に知床半島地域は平成 17 年 7 月に世界自然遺産に登録され、国内外から多くの観光客が訪れており、生態系と生物多様性を維持し、原生的な森林環境を後世に引き継いでいくことが期待されている。</p> <p>また、河川が豊かな水量を供給することでホタテやサケを代表とする漁業や全道一の生産量を誇る玉ねぎをはじめとする小麦、てんさい、ばれいしょ等の畑作などに重要な役割を果たしている。</p> <p>森林の現況は、約 595 千 ha の流域面積に対して約 66%が森林となっており、このうち国有林の占める森林面積は 62%ほどである。林相は、トドマツ（65%）を主とした人工林が約 69 千 ha、トドマツ、エゾマツ等の針葉樹にミズナラ、シナノキ、カンバ類等の広葉樹が混交する針広混交林の天然林が約 148 千 ha となっている。</p> <p>森林の蓄積は北海道の平均 158 m³/ha に対して 213 m³/ha で、人工林の齢級構成は 12 齢級をピークとする一山型であり、10 齢級以上の面積割合が約 68%を占めている。</p> <p>また、森林面積の約 79%が水源かん養保安林を主とした保安林に指定されており、地域の水源林として機能するほか、基幹産業である農業及び水産業の振興に資する観点から保水機能を維持した適切な森林整備が求められる。</p> <p>これらのことから、多面的機能の持続的発揮を図ることができる多様な森林づくりのほか、適切な間伐や主伐後の確実な更新による林地保全に配慮した森林づくりの実施など、森林整備の必要性は一層増している。</p> <p>さらに、効率的な路網配置、伐採と造林の一貫作業システム、低密度植栽、コ</p>		

	<p>ンテナ苗植栽、機械下刈の導入などによる造林及び保育の低コスト化の取組を図りながら、森林資源の持続的な利用を一層推進して、引き続き社会経済生活の向上とカーボンニュートラルに寄与する「グリーン成長」の実現に向けて国有林の役割を継続的に果たすことが求められる。</p> <p>本事業ではこれまでの評価結果を踏まえ、地域の期待に応えるためにも広く、地域の林業関係者等の意見を聞きながら、森林の有する公益的機能を持続的に発揮するために必要な森林整備及びこれらを効率的に推進するための路網整備を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主な事業内容 <table border="0" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>森林整備</td> <td>更新面積</td> <td>2,234ha</td> </tr> <tr> <td></td> <td>保育面積</td> <td>31,149ha</td> </tr> <tr> <td>路網整備</td> <td>開設延長</td> <td>27.14km</td> </tr> <tr> <td></td> <td>改良延長</td> <td>0.64km</td> </tr> </table> ・ 総事業費 22,001,834 千円（税抜き 20,001,667 千円） 	森林整備	更新面積	2,234ha		保育面積	31,149ha	路網整備	開設延長	27.14km		改良延長	0.64km
森林整備	更新面積	2,234ha											
	保育面積	31,149ha											
路網整備	開設延長	27.14km											
	改良延長	0.64km											
費用便益分析	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>総便益（B）</td> <td style="text-align: right;">90,115,395 千円</td> </tr> <tr> <td>総費用（C）</td> <td style="text-align: right;">27,397,689 千円</td> </tr> <tr> <td>分析結果（B／C）</td> <td style="text-align: right;">3.29</td> </tr> </table>	総便益（B）	90,115,395 千円	総費用（C）	27,397,689 千円	分析結果（B／C）	3.29						
総便益（B）	90,115,395 千円												
総費用（C）	27,397,689 千円												
分析結果（B／C）	3.29												
森林管理局事業評価技術検討会の意見	<p>事業の必要性、効率性、有効性が認められることから、本事業を実施することが妥当であると考えます。</p>												
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性： 本計画区の人工林において、10 齢級以上の面積割合が 68%を占め、森林資源の充実により本格的な利用期を迎えている。そのため、路網整備と保育を中心とした森林整備と確実な更新作業を進め、効率的な森林整備の実施により林業・木材産業の振興等に寄与することが期待されている。また、基幹産業である農業・漁業の振興に資する水源涵養機能や生物多様性保全など、森林の有する多面的機能の発揮が求められている。以上により、本計画区の森林環境保全整備事業の必要性が認められる。 ・ 効率性： 今後の森林施業を見据え、利用区域内における施業の優先度を勘案した路網整備が計画され、高性能林業機械を適切に組み合わせた作業システムの定着、伐採と造林の一貫作業等による伐採再造林の経費縮 												

	<p>減、大型機械地拵や機械下刈の導入による労働強度の低減及び省力化が図られていることから、事業の効率性が認められる。</p> <p>・有効性： 計画的で効率的な本事業の実施により、森林の有する多面的機能が持続的に発揮され、点在する自然公園等の周辺の環境保全や地域の基幹産業である農業及び水産業の振興、地球温暖化の防止等に寄与し引き続き効果の発現が見込まれることから、事業の有効性が認められる。</p> <p>新規採択チェックリスト及び費用便益分析を踏まえて総合的かつ、客観的に評価したところ、森林の重視すべき機能（特に水源涵養）に応じた適切な森林整備及び路網整備が効果的・効率的に計画されていると認められる。</p>
--	---

様式1

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名：森林環境保全整備事業(国有林)

都道府県名：北海道

施行箇所：網走東部森林計画区(網走中部森林管理署・網走南部森林管理署)

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源涵養便益	洪水防止便益	23,547,749	
	流域貯水便益	3,948,676	
	水質浄化便益	16,455,889	
山地保全便益	土砂流出防止便益	37,008,895	
環境保全便益	炭素固定便益	4,554,490	
木材生産等便益	木材生産経費縮減便益	255,762	
	木材利用増進便益	208,450	
	木材生産確保・増進便益	2,915,175	
森林整備経費縮減等便益	森林管理等経費縮減便益	37,794	
	森林整備促進便益	1,182,515	
総 便 益 (B)		90,115,395	
総 費 用 (C)		27,397,689	
費用便益比	$B \div C = \frac{90,115,395}{27,397,689} = 3.29$		

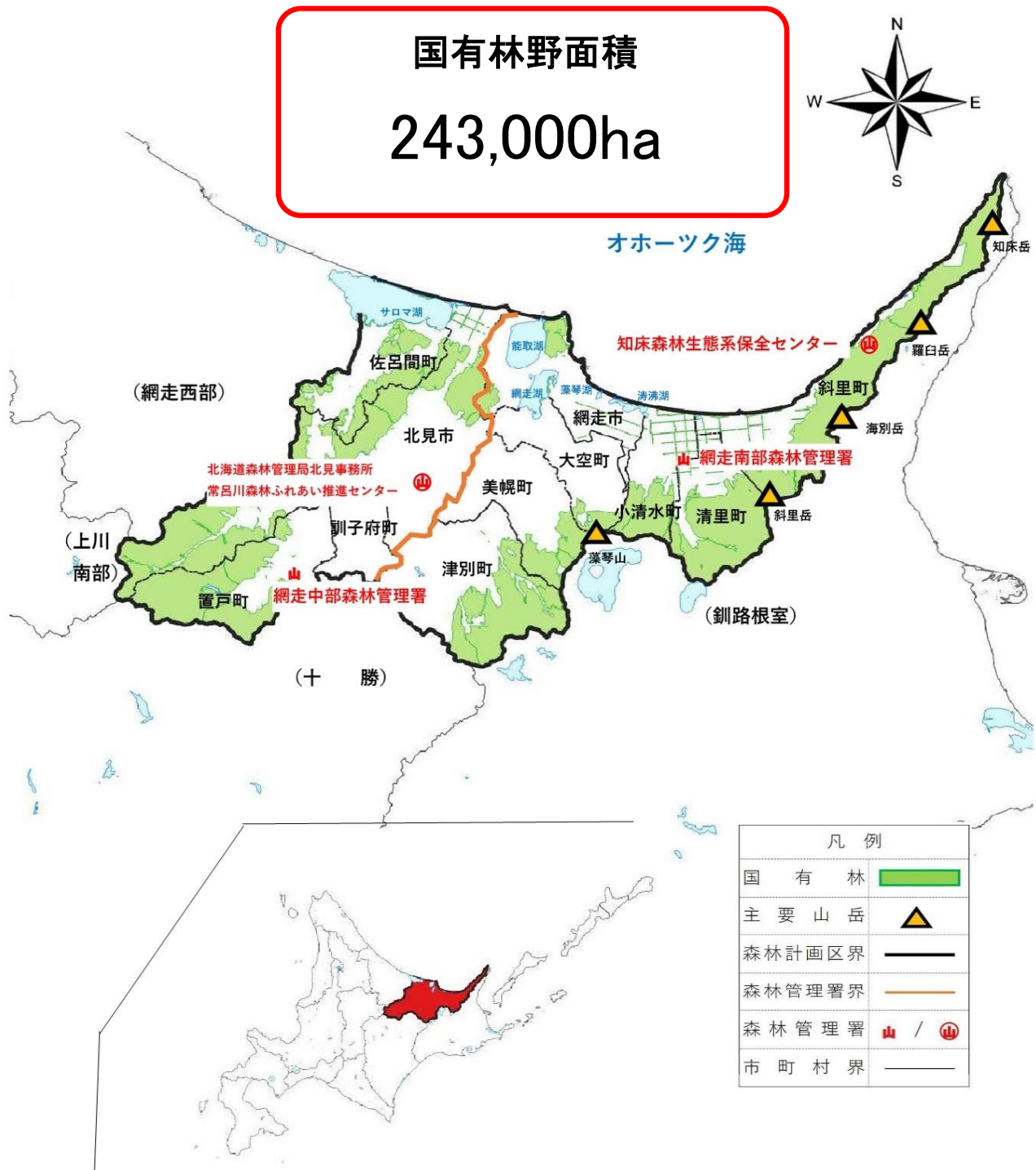
参考

費用便益比 (i=0.02)	$B \div C = \frac{152,573,894}{31,920,996} = 4.78$		
費用便益比 (i=0.01)	$B \div C = \frac{206,500,579}{34,860,308} = 5.92$		

森林環境保全整備事業

網走東部計画区 事業概要図

(網走中部森林管理署、網走南部森林管理署)



森林整備

更新面積 2,234 ha
 保育面積 31,149 ha

路網整備

開設延長 27.14 km
 改良延長 0.64 km